

一、至聖孔子

孔子の名は丘、字は仲尼で、春秋時代今の山東省曲阜の魯国の人である。周の靈王二十一年八月二十七日（前五五一年九月二十八日）に生れ、周の敬王四十一年（前四七九年）に卒した。初め魯国の首都の市長となったが、まもなく司法長官に拔擢され、年五十六にして首相代理となり、大臣少正卯を死刑にし、三ヶ月で大いに治績を挙げた。その後諸国遊歴の旅に出て十三年に及んだが、用いられず、六十八歳の年、魯に帰り、『詩経』・『尚書』を整理し、礼樂を定め、『周易』に註釈を加え、『春秋』を編し、中国文化の礎を造った。七十三歳で世を辞したが、弟子は三千人といわれ、儀礼・音楽・射術・御馬・文学・数学の六芸に秀でる者は七十二人を数えた。孔子は中国二千余年の歴史上最も偉大な教育家・政治家そして思想家であった。その哲学思想の中心は現代語ではヒューマニティに相当する仁であり、政治上の抱負も徳治を追求した。しかし生涯に於ける最大の成就是教育に存し、彼は、「教育のみがあつて人類に種類はない」と叫び、貴族の特権であつた教育を貧富貴賤の差別なく平民に施し、在野一個人の力でかく

も多くの人材を養成し、且つ技術と人格の教育の一体化を図った。孔子の偉大な学術体系は歿後門人たちにより承継顕彰され、普及確立し、社会では孔子学団を儒家と呼ぶようになった。中国では漢の武帝以後、歴代の王朝は皆治国の根本理念を儒家思想に求め、孔子を「至聖」ないし「萬世の師表」と尊んだ。

二、祭典の由来と変遷

孔子は周靈王二十一年（魯襄公二十二年、紀元前五五一年）に生まれ、周敬王四〇年（魯哀公一六年、紀元前四七九年）に没し、享年七三歳でした。

孔子の死後二年目（紀元前四七八年）に、魯の哀公は曲阜闕里の孔子の旧宅に廟を立てることを命じ、孔子が生前に使用した衣・冠・車・琴・書籍などを保存し、季節毎に祭祀を執り行うことにしました。これが諸侯の孔子祭典の始まりです。

漢高祖一二年（紀元前一九五年）に、漢高祖が魯国を通ったときには太牢①をもって孔子を祭りました。これが帝王の孔子祭典の始まりです。

漢元帝（紀元前四八―三三年）の時、孔子の第一三代子孫孔霸を帝の師に招き、関内侯に取り立て褒成君の称号を与えて、食邑八百戸を賜い、この税收をもつて季節毎に孔子を祭ることにしました。これが孔子の子孫を侯に封じ、孔子を祭る始まりとなったのです。

漢光武帝の建武五年（紀元二九年）には、大司空宋宏を曲阜闕里に遣わして孔子を祭りました。帝王が特使を派遣して孔子を祭るのは、これが始まります。

これ以前には、あらゆる孔子の祭典はすべて曲阜の孔子廟で行なわれていましたが、漢明帝の永平二年（紀元五九年）になると、太学及び地方の郡県学などの学校で周公及び孔子を祭るようになりました。これ以降、中央政府の所在地や各地方政府では、学校において孔子を祭るようになり、孔子の祭典は全国的な重要な行事となったのです。

漢明帝永平一五年（紀元七二年）に明帝は曲阜に赴いて、孔子とその七十二弟子を祭りました。これが、孔子祭典の配享（共に祭る聖人）の開始②です。

①牛・羊・豚の三つの犠牲をすべて備えたもの太牢、一つ欠けていると少牢という。

②配享は時代の下るにつれ増加している。民国初年には四配が数えられた。復聖の顔回・述聖の子思（東配と言う）、宗聖の曾参・亜聖の孟子（西配と言う）、それに十二哲として関子騫・冉仲弓・子貢・子路・子夏・有若（東哲と言う）、冉伯牛・宰我・冉求・子游・子張・朱熹（西哲と言う）があった。以上の四配・十二哲は、大成殿内に祭られる。これに加えて、明道修徳で知られる先賢七九人（東廡に四〇人、西廡に三九人を祭る）、伝経授業で知られる先儒七七人（東廡に三九人、西廡に三八人を祭る）があり、先賢・先儒を合計して一五六人であった。（台湾各地の孔子廟に祭る人数は一致していないが、ここでは曲阜の孔子廟の人数によった）

三、現在の孔子記念祭典の式次第

一、孔子記念祭典の開始

二、鼓初嚴（開始の太鼓）

太鼓と鐘とが鳴り響き、参列者に孔子への尊敬の念を呼び起こします。

三、鼓再嚴（二の太鼓）

四、鼓三嚴（三の太鼓）

鼓初嚴、鼓再嚴、鼓三嚴と、三回打ち鳴らされますが、三は多数を代表して莊嚴さを表わします。これから正献礼・分献礼とが、初・亜・終の三回に分けて行なわれますが、これも同じ意味です。

五、各役職の入場

六、糾儀官の入場

糾儀官は、通常は現地の地方政府の民政担当の首長が担当し、祭典の式進行の誤りを糾す役目です。

七、陪祭官の入場

陪祭官は、現地の政界教育界の名士が担当します。

八、分献官の入場

分献官は、現地の政界教育界或いは議員が担当します。

九、正献官の入場

正献官は、現地政府の首長が担当します。

十、啓扉（大門開き）

孔子廟の儀門・櫺星門は、通常は閉ざされており、祭典の時に開けられますが、終わると又閉められます。通常は、脇の通用門から出入りし、孔子への尊敬を表します。

十一、瘞毛血

瘞（えい）、埋葬の意味です。祭典に用いる犠牲の太牢は、先に屠殺しておき、その毛と血を容器に入れておき、ここで礼生が捧げ持って中庭・儀門・櫺星門を通り、門の外の西側の土に埋めます。伝統的な習慣では、祭祀に畜牧の犠牲を供えます。家畜は大地で成長するので、屠殺後にその毛と血を土に埋めて、大地に帰し、土地に万物の栄養を提供し、万物の休みない成長を促します。

毛と血を埋める場所は西側です。西は五行で金に属し、屠殺を代表するからです。

十二、迎神

迎神は、本当に神霊の降臨を迎えるわけではなく、生者の死者に対する尊敬の念を満足させるために考え出された儀式の一種と言えます。

十三、掬躬礼（お辞儀の礼）

十四、進饌（お供え）

古代の祭祀には、死者には生者と同じく仕えると言う原則があり、お供えの品は死者が生前に用いていたものと同じです。これにより、生者にとっても死者がまだ生きてるように考えられるのです。

十五、上香（お香上げ）

十六、初献礼（最初の舞楽奉納と儀式）

侑生（舞踏）は、小学生がこれに任じ家ます。古代の舞踏は文舞・武舞・文武合一の舞いに分かれています。文舞は手に羽と籥を持った子供が、武舞は干戈を持った十五歳以上の少年が、文武合一の舞いは羽・籥・干戈を持った成人が行ないます。

十七、初分献礼（諸賢人への儀式）

十八、祝文の朗読

十九、三掬躬礼（お辞儀の礼）

二十、亜献礼（二回目の儀式）

二一、亜分献礼（諸賢人への二回目の儀式）

二二、終献礼（最後の儀式）

二三、終分献礼（諸賢人への最後の儀式）

二四、總統の焼香

二五、總統の祭文の朗読

二六、全体三掬躬の礼を行う

二七、奉祀官の焼香

二八、飲福受胙（お供えの酒肉分け）

胙（そ）、お供えの肉。古代の観念では、祭祀を行なうものは神明に福を祈り、神明はお供え品に託して福を与えるので、お供えの酒をのみ肉を家に持ち帰るのは、神明の福を受け取ることになります。

二九、撤饌（お供え下げ）

三十、送神

三一、掬躬礼（お辞儀の礼）

三二、祝帛の燎所送り

燎は焼くことで、古代人の観念では神明に捧げたお供えを焼くことで、神明

In early days, Chinese believe the spirit of Sage gave his blessing in sacrificial offerings, wine and meat. People drink the wine and take the meat home to symbolize his accepting the spirit of Sage's blessing.

29. Withdrawing the offered dainties.

30. Farewell to the spirit of Sage.

31. All attendants bowing.

32. Burning the message of eulogy and silk.

In early days, Chinese believe the spirit of Sage will receive offerings after they are burned.

33. Observing the burning.

The reason for observing the burning is to express one's sincerity throughout the ceremony. Returning to position

34. Closing the gates.

35. Withdrawal.

36. Conclusion.

37. The Ceremony Concludes.



は受け取るとしたのです。

三三、望燎（祝帛焼き）

望燎には、誠意をもって儀式の終りを見届けるという意味があります。

三四、復位（全員元の位置に戻る）

三五、闔門（大門閉め）

三六、撤班（退場）

三七、祭典終了